

2025 年 11 月 6 日

千代田化工建設株式会社
総務部 IR・広報・サステナビリティ推進セクション

2026 年 3 月期第 2 四半期決算説明会 質疑応答要旨 (11 月 5 日開催)

11月5日に開催致しました、2026年3月期第2四半期決算説明会(オンライン)において、出席者の皆様から頂いた主なご質問と弊社の回答を以下にまとめております。

#	質問	回答
1	完成工事総利益率	
	当四半期における押上げ要因はあるか。	• 手持ち案件の着実な進捗により、幅広く利益を積み上げたことで、40 億円程度の上振れとなった。 • その中で、一過性要因として、海外の完工案件で過去に計上したリスク費用が今期で戻ってきたものが約 15 億円程度ある。 • 国内は、グループ会社の千代田エクスワンエンジニアリングの案件が貢献した。
2	ゴールデンパスLNG	
	ゴールデンパス LNG の交渉状況を教えて欲しい。	• 6 月に締結した Term Sheet から文言に落とし込む作業を行っており、時間を要したが、現在は最終段階にきている。
	引当金の取り崩しに向けた状況は。	• 契約が調印できれば、基本的には引当金は全額引き戻すものと考えている。
3	受注	
	下期の受注見通しは。	• 下期は、国内を中心に受注を想定しており、通期予想の達成を見込んでいる。 海外は第1四半期でお知らせの通り、中東で石油・石

#	質問	回答
		油化学案件を受注しており、下期での大きな受注は見込んでいない。 ・ 期初では通期予想 2,500 億円の内訳を国内 2,000 億円、海外 500 億円としていたが、足元は、国内が 1,500 億円、海外が 1,000 億円となる見通し。
	経営現況報告P10にある「主な受注ターゲット」は、国内の比率が高いが、中計の方針を反映したものか。	・ 本中計期間は、多数のプロジェクトを追うことで安定的なポートフォリオを作るための期間としている。 ・ 規模を優先せず、質を追い求めていく。 国内の受注額の方が海外よりも多くなるように意図している。

以 上

この資料には、本資料発表時における将来に関する見通しおよび計画に基づく予測が含まれています。経済情勢の変動等に伴うリスクや不確定要因により、予測が実際の業績と異なる可能性があり、予想の達成、および将来の業績を保証するものではありません。従いまして、この業績見通しのみに依拠して投資判断を下すことはお控えくださいますようお願いいたします。